

編集委員

中島利郎（岐阜聖徳学園大学教授）

河原功（成蹊高等学校教諭）

下村作次郎（天理大学教授）

〈新装版〉

日本統治期台湾文学 文芸評論集

全五卷

本評論集は、既刊の『日本統治期台湾文学 日本人作家作品集』及び『同 台湾人作家作品集』の姉妹編である。

台湾の近代文学の創作は、日本の領台ほぼ三〇年を経た一九二〇年代初頭に始まり、二五年以降に盛んになる。それに関連して文芸評論も出るが、本格的な台湾文学に関する作家・作品論の登場は、三三年の『フォルモサ』創刊以降、楊逵の「新聞配達夫」が日本の文壇で話題となつて以降であり、四〇年代に入り「台湾文壇の成熟期」を迎えて創作の増加にもなつて文芸評論は最盛期を迎える。

もちろん楊逵以前にも文芸評論はあつた。しかし、それらは台湾においていかなる近代文学を生み出すか、台湾文学をいかに表記するかという、所謂「新旧文学論争」及び「郷土文学論争」に関わる論争が主であつた。

台湾の文壇は、その成熟期にあつても一人の職業作家も産み出さなかつたし、勿論、一人の職業的文芸評論家もいなかつた。しかし、彼らはそれに反するように、台湾という土壌に根ざし、台湾の錯綜する歴史の上に自らの文学的営為を育んでいった。台湾文学は台湾という土地を愛した、作家たちの結晶といえる。そして、時には側面より時には正面よりそれを支援したのが文芸評論であつた。

本資料集は、以上に挙げた論争をも含み、編者三人が閲覧した広義の文芸資料類（但し、新聞等は除く）を網羅的、編年式に収録し『文芸評論集』と名付けて刊行するものである。

日本植民地文学において初めての文芸評論集〈2刷〉

緑蔭書房

文藝大衆化

芥舟

328

打倒貴族文學、實現平民文學、在這箇口號下的中國「五四」運動的文學革命、和第三階級的民主政治革命達成一樣已算達成了。可是以「大衆」之名而云々の民主主義的議會政治、不——平民文學、究竟所實現得到的平民、是平民到什麼程度呢？文學革命於今拾數年了、爲什麼還要嚷着「文藝大衆化」？實哉！叫人不省頭腦、就「實現平民文學」的口號不是像政治屋的勒三暮四、不是像軍閥的羊頭、也恐怕是一場的「烏托邦」吧了！

一九一九年の中國文壇、就已經有了這箇「文藝大衆化」の問題、不過提案過於抽象、無從使人得到明確的概念、因此終於一陣空雷無雨、及到一九三三年、問題翻新、這回也比較有頭有腦、於是便不但雷、雨也下了。

「五四」以後的新文學、以其推進的力量、多是惡於外來的思潮、因此不免有一點歐化的傾向、一面隨文學自身的發達、也當然要漸次高度、但是被開却的大衆的文化水準、却絲毫也不曾得革除彼此的溝隔、因此「五四」以後的新文學、形式內容都頗衆、是根本無緣接近的、然而還在爲大衆的伴侶那些封建殘餘的是故、作家應當轉換「五四」所走的路徑、去替大衆創造一些看義、唱本、連環圖畫等、同時也努力創作各種新的形式、寫大衆文化的水準。

對此、在原則上並不發見怎麼異議的理由、以爲過於艱深的要「那無異把大學生也派到小學去混合教授一樣了、怎麼了得？」

文芸大衆化(第一卷収録)

小説總評

—昭和十八年上半年期の臺灣文學—

高見順

臺灣公論支社長が来て、今年の上半期の臺灣文學の總評をやつてくれと言ふ。私は臺灣の文藝界に關しては全く無智のものである。そして臺灣と私の關係も極めて薄いのであつた。昭和十六年のなかば、舊關印の遊歴からの歸途、汽船が高雄に寄港したとき、ちよつと臺灣にあがつてみた。そして臺南、臺北を経て陸行、基隆から再び船に乗つた。それだけの浅い因縁である。そのせつ「文藝臺灣」の西川滿君に會つた。東京での知り合ひの「臺灣文學」の澁谷精一君にも會つた。西川君とは面識は無かつたが綺麗な雑誌をいつも貰つてゐて、いつか舊知の感

があつた。さうした薄い縁でも、臺灣には私ひとりの氣持として親しみを持つてゐた。その親しみから、臺灣公論支社長に「では、やつてみませうか」と答へた。答へたあとで私は、これは私的な氣持のつながりといつたことから當つてよろしい種類のものではないと思つた。私は去年ビルマの方に行つてゐて、大東亞文學者大會の時は内地にゐなかつた。従つて大會の實際に就いては知らないし、大會の持つたところの意義、成果についても深くは知らない。けれども、それが實したところの、固い精神の結合と力強い昂

本評論集の内容

第一巻

「一九二〇年・七月〜一九三五年・一月」

- 文学と職務「台湾青年」陳忻
- 実社会と文学「台湾青年」甘文芳
- 日用文鼓吹論「台湾青年」陳端明
- 論普及白話文的新使命「台湾」黃呈聰
- 漢文改革論「台湾」黃朝琴
- 討論旧小説的改革問題「台湾民報」張梗
- 為台湾の文学界一哭「台湾民報」一郎
- 絶無僅有的擊鉢吟的意義「台湾民報」張我軍
- 為台湾の文学界統哭「台湾民報」蔡孝乾
- 文学革命運動以来「台湾民報」張我軍
- 林芙美子の「台湾風景」を駁す「台湾民報」桃源生
- 発刊詞「南音」奇
- 對於台湾旧詩壇「南音」陳達源
- 俺達の文学の誕生について「台湾文学」頼明弘
- 台湾文学を大衆の中へ「台湾文学」林原晋作
- 刺激文学的研究「南音」一吼
- 明治卅年代台湾雜誌覚え書「愛書」裏川大無
- 創刊の辞「フォルモサ」
- 台湾文芸界への待望「フォルモサ」楊行東
- 台湾の郷土文学を論ず「フォルモサ」吳坤煌
- 一九三三年の台湾文学界「フォルモサ」劉捷
- 宣言「先発部隊」
- 台湾新文学出路の探求「先発部隊」黃石輝・他
- 吾々の創作問題「台湾文芸」巫永福
- 台湾文学の鳥瞰「台湾文芸」劉捷
- 台湾文壇一九三四年の回顧「台湾文芸」楊達

他約70編収録



「日本統治期台湾文学文芸評論目録」の組見本（縮小）

■1940年

- *1-1 新田淳「詩作について——若き女性に」(『文芸台湾』1-1)
- *1-1 島田謹二「外地文学研究の現状」(『文芸台湾』1-1)
- *1-15 志馬陸平「時局下台湾の娯楽界」(『台湾時報』一月号)
- *3-1 楊雲萍「劉家謀の『海音』に就いて」(『文芸台湾』1-2)
- *3-4 張文環「台湾文学の将来に就いて」(『台湾芸術』1-1)
- *3-4・4-1・5-1 編輯部「台湾文芸雜誌興亡史(一)〜(三)」(『台湾芸術』1-1・1-2・1-3)
- *4-1 中山侑「思ふことなぞ——皇民化制について」(『台湾芸術』1-2)
- *4-1 徐瓊二「台湾文化への道——芸術發展のための政治的手腕」(『台湾芸術』1-2)
- *4-1 龍瑛宗「作家の眼」(『台湾芸術』1-2)
- *4-1 編輯部「作家紹介(中村地平氏の巻)」(『台湾芸術』1-2)
 - 4-1 中村地平・紅筆訳「台湾文学界の現状」(『華文大阪毎日』)
- *5-1 龍瑛宗「創作せむとする友へ」(『台湾芸術』1-3)
- *5-1 藤野雄士「張文環と“山茶花”についての覚え書」(『台湾芸術』1-3)
- *5-1 楊雲萍「台湾文学の研究」(『台湾芸術』1-3)
- *5-1 編輯部「作家紹介(真杉静枝の巻)」(『台湾芸術』1-3)
 - *5-1 「台芸評壇」(『台湾芸術』1-3)
 - *5-1 楊雲萍「楊俊は楊承藩にあらず」(『文芸台湾』1-3)
 - 5-21 李氏秋華「南方の果実——“山茶花”を読んで」(『台湾新報』)
 - 6-15 余若林「台湾文学界補」(『華文大阪毎日』)
- *7-9 黃氏鳳姿「“七娘媽生”を書いた頃」(『台湾芸術』1-5)
- *7-10 中村哲「外地文学の課題」(『文芸台湾』1-4)
- *7-10 新垣宏一「女誠爾綺譚——断想ひとつみつたつ」(『文芸台湾』1-4)
- *10-1 松風子「女誠爾綺譚」の話者について」(『文芸台湾』1-5)
- *10-1 龍瑛宗「文芸台湾」作家論」(『文芸台湾』1-5)
- *11-1 (D)「濱田雄雄氏の小説(六号評論)」(『台湾時報』251)
 - 11-13 張文環等「台湾の音楽と演劇に就いて(座談会)」(『台湾芸術』8)
 - 11-17 西川満「皇民化制を見て。芸能祭新劇コンクール」(『台湾日日新報』)

日本統治期台湾文学 文芸評論目録 27

第二巻

「一九三五年・二月〜一九三六年・五月」



採録雑誌名一覽(順不同)

- 文学評論(ナウカ社)
- 文学案内(文学案内社)
- 新文学月報(台湾新文学社)
- 台湾文芸(台湾文芸連盟)
- 台湾文芸(台湾文学奉公会)
- 台湾新文学(台湾新文学社)
- 台湾時報(台湾時報発行所)
- 台湾公論(台湾公論社)
- 台湾文学(台湾文芸作家協会)
- 台湾芸術(台湾芸術社)
- 台湾青年(台湾青年雜誌社)
- 台湾(台湾雜誌社)
- 台湾民報(台湾民報社)
- 台湾警察時報(台湾警察協会)
- 民俗台湾(東都書籍台北支社)
- 文芸台湾(台湾文芸家協会)
- フォルモサ(台湾芸術研究会)
- 南音(南音社)
- 第一線(台湾文芸協会)
- 先発部隊(台湾文芸協会)
- 風月報(風月倶楽部)
- 人人(人人雜誌発行所)
- 愛書(台湾愛書会)
- ネ・ス・パ(ネ・ス・パの会)
- 媽祖(媽祖書房)
- 華麗島(台湾詩人協会)
- 翔風(台北高校報国校友会)
- 新建設(皇民奉公会)
- 新潮(新潮社)
- 週刊朝日(朝日新聞社)



第三卷

「一九三六年・六月」～「一九四一年・五月」

- 台湾文壇の明日を担ふ人々「文学案内」楊達
- 『紳士への道』と『田園小景』「台湾新文学」吳濁流
- 頼懶雲論「台湾時報」王錦江
- 台湾文学当面の諸問題「台湾文芸」
- 台新八月号創作評「台湾新文学」黄得時
- 大文豪魯迅逝くその生涯と作品を顧みて「台湾新文学」黄得時
- 台湾作家の任務「台湾新文学」林房雄・他
- 報告文学問答「台湾新文学」楊達
- 若き台湾文学のために「台湾新文学」龍瑛宗
- 日孝山房私版発願記「媽祖」西川満
- 佐藤春夫氏の『女誠扇綺譚』「台湾時報」松風子
- 西川満氏の詩業「華麗島文学志」「台湾時報」松風子
- 台湾文学の将来に就いて「台湾文芸」張文環
- 台湾文芸雑誌興亡史「台湾文芸」編輯部
- 台湾文学の研究「台湾文芸」楊雲萍
- 外地文学の課題「文芸台湾」中村哲
- 『文芸台湾』作家論「文芸台湾」龍瑛宗
- 昭和十五年度の台湾文壇を顧みて「台湾文芸」池田敏雄・他
- 庄司総一氏の『陳夫人』について「台湾時報」濱田隼雄
- 台湾に於ける文学について「愛書」神田喜一郎・島田謹一
- 台湾の文学的過現未「文芸台湾」島田謹一

他約70編収録

小説的人物描写「第一線」黄得時

芸術は大衆のものである「台湾文芸」楊達

对台湾新文学路線の一提案「台湾文芸」張深切

台湾雜誌興亡史「台湾時報」裏川大無

統台湾文学鳥瞰「台湾文芸」劉捷

文芸批評の基準「台湾文芸」楊達

お上品な芸術観を排す「文学評論」楊達

『台湾文芸』的使命「台湾文芸」張深切

台湾文学に関する覚え書「台湾文芸」郭天留

民間文学の整理及びその方法論「台湾文芸」劉捷

台湾の文学運動「文学案内」楊達

台湾文学運動の現状「文学案内」楊達

創刊の言葉「台湾新文学」

多実文学漫談「台湾新文学」布施辰治

台湾文化に関する覚書「台湾時報」河崎寛康

台湾習俗「台湾時報」東方孝義

台湾の文芸運動に関する二三の問題「台湾新文学」河崎寛康

同好者の面影「台湾新文学」毓文

台湾文学の史的考察「台湾時報」劉捷

他約70編収録



第四卷

「一九四二年・六月」～「一九四三年・三月」

新鋭台湾作家紹介「週刊朝日」真杉静枝

台湾演劇の今昔「翔風」王育徳

執筆者名一覽 (順不同)

台湾人

日本人

甘文芳

楊達

林原普作

陳端明

黃得時

郭天留

裏川大無

黃呈聰

巫永福

郭水潭

徳永直

黃朝琴

張深切

吳兆行

藤森成吉

蔡培火

林克夫

呂赫若

中山侑

逸民

張我軍

郭天留

徳永直

半新旧

蔡孝乾

楊雲萍

矢野峰人

頼懶雲

負人

郭秋生

布施辰治

郭秋生

郭秋生

郭秋生

河崎寛康

郭秋生

郭秋生

郭秋生

新居格

郭秋生

郭秋生

郭秋生

藤野雄士

郭秋生

郭秋生

郭秋生

新垣宏一

郭秋生

郭秋生

郭秋生

林房雄

郭秋生

郭秋生

郭秋生

島田謹一

郭秋生

郭秋生

郭秋生

西川満

郭秋生

郭秋生

郭秋生

火野葦平

郭秋生

郭秋生

郭秋生

新田淳

郭秋生

郭秋生

郭秋生

中村哲

郭秋生

郭秋生

郭秋生

池田敏雄

郭秋生

郭秋生

郭秋生

長崎浩

郭秋生

郭秋生

郭秋生

謝万安

郭秋生

郭秋生

郭秋生

吳鴻爐

郭秋生

郭秋生

郭秋生

陳火泉

郭秋生

郭秋生

郭秋生

張文環

郭秋生

郭秋生

郭秋生

翁開

郭秋生

郭秋生

郭秋生

蘇維熊

郭秋生

郭秋生

郭秋生

楊行東

郭秋生

郭秋生

郭秋生

劉捷

郭秋生

郭秋生

郭秋生

周定山

郭秋生

郭秋生

郭秋生

頼慶

郭秋生

郭秋生

郭秋生

楊守愚

郭秋生

郭秋生

郭秋生

疏文

郭秋生

郭秋生

郭秋生

朱点人

郭秋生

郭秋生

郭秋生

徐瓊二

郭秋生

郭秋生

郭秋生

王錦江

郭秋生

郭秋生

郭秋生

王育徳

郭秋生

郭秋生

郭秋生

周金波

郭秋生

郭秋生

郭秋生

張星建

郭秋生

郭秋生

郭秋生

第五卷

「一九四三年・四月」～「一九四五年・三月」

頼和氏追憶「民俗台湾」 楊雲萍
 頼和先生を憶ふ「台湾文学」 楊逵

「牛のゐる村」に就て「台湾公論」 辻義男

周金波論「台湾公論」 辻義男

台湾文学史序説「台湾文学」 黄得時

昭和十八年上半年期の台湾文学「台湾公論」 高見順

濱田隼雄論「台湾公論」 辻義男

徐坤泉と黄得時「台湾公論」 高芳郎

台湾決戦文学会議雜観「台湾公論」 新田淳

台湾文学史「台湾文学」 黄得時

昭和十八年下半年期小説総評「台湾公論」 窪川鶴次郎

新しい文芸雜誌「台湾文芸」 竹村猛

呂赫若論「台湾時報」 河野慶彦

派遣作家の感想「台湾文芸」 西川満・他

台湾文学界の総蹶起「台湾文芸」 峰人外

他約40編収録

解説

日本統治期台湾文学文芸評論目録

執筆者名索引



台湾文壇建設論「台湾文学」 黄得時

領台役に取材せる戦争文学「文芸台湾」 島田謹一

皇民鍊成劇雜感「台湾警察時報」 中山侑

台湾芸術界への要望「台湾芸術」 濱田隼雄・他

南方の作家たち「文芸台湾」 龍瑛宗

大東亜戦争と文芸家の使命「台湾芸術」 黄得時・他

軌近の台湾文学運動史「台湾文学」 黄得時

「南方移民村」近傍「文芸台湾」 竹村猛

台湾代表的作家の文芸を語る座談会「台湾芸術」

張文環・西川満・濱田隼雄・龍瑛宗

大東亜文学者会議に際して「台湾時報」 楊逵

台湾文芸界の一年「台湾時報」 楊雲萍

台湾文学の黎明「文芸台湾」 矢野峰人

現段階に於ける台湾演劇「台湾文学」 龍田貞治

台南地方文学座談会「文芸台湾」 河野慶彦・他

台湾文化賞と台湾文学「台湾時報」 工藤好美

戦争と台湾文学賞「台湾時報」 角行兵衛

他約80編収録

本評論集の内容

台湾における文芸評論が始まった一九二〇年代より四五年終戦までの日本統治期台湾の文芸関係を中心とした評論類（雑誌三〇誌、総四八五編へ一部中文を含む）、執筆者三三〇名を網羅した。

本評論集は、日本植民地文学の初めての文芸評論集で、今回収録した台湾文芸評論の作品群は他にすることは難しく、現時点において台湾文芸評論集の決定版である。

台湾の文学運動・文芸界の流れを閲覧できるように基本的に編年体とした。

本評論集は作品・作家の紹介、批評、文学運動論、文芸論争、文学界・演劇界の動向、文芸諸雑誌の紹介を満載。日本統治期台湾文学研究に必須の資料集である。

研究資料としての側面も考慮してオリジナルな形で復刻（編集復刻も含む）した。

本書未収録論文も網羅した「日本統治期台湾文学文芸評論目録」「執筆者名索引」「解説」を付し研究者の便をはかった。



濱田隼雄
 神田喜一郎
 国分直一
 真杉静枝
 渋谷精一
 金岡丈夫
 竹村 猛
 竹内 治



陳垂映 陳永邦 曾石火
 雷石楡 宮安中 耐 霜
 楊香東 徐玉書 李爺里
 吳天賞 董祐峰 王碧蕉
 林克敏 茱 莉
 高見 順
 神川 清
 高橋比呂美
 窪川鶴次郎
 松井桃楼
 田中保男
 葉山嘉樹

●写真は右から西川満 呂赫若 中山侑 龍瑛宗 楊逵

日本統治期台湾文学 文芸評論集

全五巻

中島利郎・河原功・下村作次郎編〈新装版〉

体裁 編集復刻版・A5判・上製クロス装・総2100頁

配本 全巻一括配本〔'08年6月刊〕

定価 本体揃価格60,000円＋税（分売不可）

ISBN978-4-89774-030-0 C3397

関連図書

日本統治期台湾文学 日本人作家作品集

中島利郎・河原功編 西川満、濱田隼雄、坂口禊子、中山侑、川合三良の代表作品を集成。別巻には内地作家が台湾を描いた作品を収録。植民地台湾文学、近代日本文学の空白をうめる初の本格的作品集。 全5巻・別巻1 本体58,000円〈編集復刻・四六判〉

日本統治期台湾文学 台湾人作家作品集

中島利郎・河原功・下村作次郎・黄英哲編 植民地下台湾で活躍した代表的作家である楊逵、呂赫若、龍瑛宗、張文環などの「日本語作品」を集成した日本で最初の本格的な台湾人作家の作品集。別巻には発禁も含め資料的価値の高い「中国語作品」を収録した。 全5巻・別巻1 本体58,000円〈編集復刻・四六判〉

日本統治期台湾文学 研究文献目録

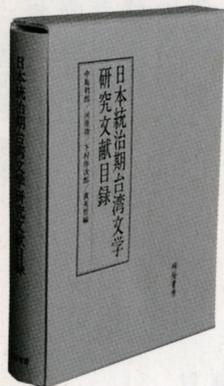
中島利郎・河原功・下村作次郎編 日本統治期の台湾で活躍した代表的な台湾人・日本人作家の著作目録・研究文献目録と当時の主要文芸誌総目録、及び戦後の日本における台湾文学研究の現状を鳥瞰できる目録を収録。 本体12,000円〈A5判〉

台湾文学研究の現在

台湾文学論集刊行委員会編 現在の台湾文学研究の高水準を示す最新論集16編を収録。塚本照和古稀記念出版。 本体5,500円〈A5判〉

日本統治期台湾文学小事典

中島利郎編・著 主要な台湾人作家、日本人作家、文学関連事項等、約300項目及び、「写真で見る日本統治期台湾文学小史」を収録。 本体9,000円〈A5判〉



緑蔭書房

東京都板橋区板橋 1-13-1 ☎03(3579)5444

お申し込みは下記取扱書店へ